

巻頭特別
インタビュー

内閣総理大臣

安倍晋三

安倍総理、
これからの日本、
社会保障と看護の未来について、
お話を聞かせてください。

一人ひとりのための政策

たかがい ワールドカップ・サッカーの日本チーム、ベルギー戦は残念でしたが、とてもいい試合でしたね。

安倍 惜しかった。でも、日本チームが、世界のトップレベルと互角に戦えるところまで来た、これはすごいと思いました。

たかがい 安倍総理もずっといい試合を続けていらつしやいます。思い返せば、2012年秋の自民党総裁ご就任当時、日本社会には暗雲が垂れ込めている雰囲気でした。そうした時に総理は、日本は絶対に再生する、という力強いメッセージを発信されました。辛抱強く国民に励ましの声を届け続け、その勢いを今も続けておられることに、敬服しております。

安倍 あの時から、あつと言う間のような気がします。当時、日本は人口も減少し、もう成長しないのではないか、成長しなくてもいい、というような停滞感がありました。しかし、社会保障費を賄い、国民の皆さんの生活を守るためには、それではいけないのです。

私が掲げた一億総活躍社会という

第二次安倍政権発足から5年半以上が経ち、日本経済は立ち直りを見せて、雇用情勢も上向いています。しかし我が国は、これから本格化する労働力減少のなかで、厳しい国際競争に對峙し、安定的な成長と国際協調に基づく平和を実現していかなければなりません。山積する政策的課題のうち、今回はとくに、これからの社会保障と看護への期待について、たかがい議員が安倍総理に直撃インタビューしました。

聞き手

たかがい 恵美子 参議院議員



photo 矢野信夫

目標には、誰もが夢に向かって頑張れる、何度でもチャンスがある、そして今日より明日はきつとよくなると思えることのできる社会をつくりたい、という思いがこめられています。国民一人ひとりが生きがいを感じ、誰もが能力を発揮できるのがこれからの日本社会だ、と確信しています。

また、皆さんが安心して活躍できるように、皆さんを支えるのが社会保障です。日本の優れた制度をこれからも守り続けたいと思います。時

代の変化に応じ、時には勇氣を持って改革に挑まなければならないこともあります。諦めず、チャレンジしていきたいと思っています。

さらなる女性活躍に向けて

たかがい 総理の変わらぬ熱意、確固たる姿勢は、どのようにして保たれているのでしょうか。

安倍 氣力を保ち続けるために、やはり心身の健康は大切ですね。精神的に萎えないためには、健康な肉体

が大切です。

たかがい 筋トレをされている？

安倍 少しだけ筋トレとストレッチをやっています（笑）。それから気分転換をして、ストレスを溜めないようにしています。

たかがい 心の筋肉はいかがですか（笑）。

安倍 たまにスポーツして汗を流すことと、家で1時間くらいリラック

たかがい 確かに、オン・オフの切り替えは大事です。私たち看護職も、

現場にいると気持ちを緩める時間がありません。知識や技術はもちろん重要ですが、気持ちをどうやって調整し次に繋げるのかも大事、これが経験なのかもしれません。

安倍 看護のお仕事は、人の命に関わるものですから、気が抜けないと思います。そこで、燃え尽きないようにはしないといけませんね。

たかがい その割には看護職のお給料、なかなか上がらないんですよ。キャリアの継続やキャリアラダーの問題もあって、フルタイム勤務者でも男女間の賃金格差があります。日本でも女性の社会参加をさらに進めるには、フルタイム勤務者の賃金格差がなくなるようにしていくことが必要だと思いますが、いかがでしょうか。

安倍 女性の活躍促進は、私が総理大臣となった直後から、最重要課題の一つに掲げてきました。女性活躍推進法をつくり、保育の受け皿整備など、女性が働きやすい環境を作ることに全力で取り組んできました。

その結果、わが国の女性の就業者数は200万人増加し、過去最高となっています。子育て世代の女性就業率は政権交代前から7%上昇し、いわゆるM字カーブ問題も解消に向

かっています。民間企業の管理職の女性割合も9・6%と過去最高になっています。

こうした取り組みを続けることで、ご指摘のようなフルタイムの男女間賃金格差の解消につなげていければと考えています。

さらに、今回の働き方改革では、同一労働同一賃金の実現を目指し、非正規職員と正規職員の不合理な待遇差をなくしていきたいと思っています。

人材確保と看護職の活躍促進

たかがい わが国の医療福祉は比較

的女性の参加のしやすい分野ですが、一般産業の大卒平均と比較して賃金が低く、夜勤のある看護師で約8割、栄養士で約6割の水準にとどまっています。今後は専門的スキルを有する女性人材が十分に活躍できる方策を充実すべきと考えますが、いかがでしょうか。

安倍 わが国は、かつて世界のどの

国も経験したことのない超高齢社会に突入しますので、医療・看護を担う人材確保はますます重要となります。医療・看護の分野においても働き方改革を進めると同時に、女性活躍の旗を高く掲げて、様々な取り組みを進めていく必要があります。

保健医療へのニーズの多様化に伴い、看護職が活躍されるフィールドは、今後も広がっていくと考えられます。民間の調査では、女子高生のかねての職業第1位が看護師という結果があると聞いています。その理由として「やりがいがある」が多くあげられていることは、皆さんが看護職の魅力を高める活動を長年続けてこられたご努力の賜物であると思います。

働き続けることのできる環境整備を

たかがい いのちの最前線で働く看護職に対して、総理から、何よりの

励ましをいただき、とても嬉しいです。さて、骨太方針にも、生涯を通じて女性の健康支援が盛り込まれました。政府での取り組みの状況を教えてくださいいただけますか。

安倍 看護職員のうち9割以上が女

性ですが、仕事にやりがいを感じ、続けたいと思っても、家庭と仕事の両立が難しく、離職せざるを得ないという現状があると聞きます。

院内保育をはじめ、キャリアを諦めずにすむような労働環境の整備が重要だと考えています。

また、女性の健康支援には、妊娠・出産期、更年期などライフステージに応じた対応が必要だと思います。相談体制づくり、普及啓発・研究などに取り組んでいます。看護職の方々の活躍に期待したいところです。

予防・健康増進分野での飛躍

たかがい 地域包括ケアの普及が進

んでいます。人生の最終段階を穏やかに過ごすという観点から、生活の場には不可欠の仕組みとありますが、同時に、健康を維持するための努力を進めることも欠かせません。この点で、看護職には期待される役割がまだあると感じますが、いかがでしょうか。

安倍 医療機関の外へ飛び出して、地域で活躍する看護師が増えていると聞いています。訪問看護は、とても頼りになる存在ではないでしょうか。予防や健康増進も、今後の社会

保障の重点課題の一つです。看護職員の方には健康なまちづくりの中心となって活躍して欲しいですね。また、出産の場面に目を転じると、晩産化などでハイリスクの妊娠は増加していますので、産前・産後を通じた助産師の活躍もますます期待されると思います。

グローバルヘルスへの貢献

たかがい 総理は、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ（UHC）の普及という点でも世界的なリーダーとして大きな影響力をお持ちです。日本の看護師は、世界で活躍できそうでしょうか。

安倍 わが国が議長国を務めた2016年伊勢志摩サミットでは、首脳レベルで初めてUHC推進ビジョンを掲げるなど、SDGs（持続可能な開発目標）の実現に向けた努力を続けています。国民皆保険制度や介護保険制度などの優れた仕組みで培ったノウハウをアジア諸国と共有していきたいと考えています。

国際協力、学際交流等の場を通じて、看護職の皆さんにもこうした取り組みの一翼を担っていただくことを期待しています。

看護や医療に関する専門的な知識に加え、様々な人々に寄り添って思いや悩みを受け止めてきた看護の力で、世界の保健水準を引き上げるために貢献していただきたいと思っています。

可能性を信じてチャレンジ！

安倍 そういえば、来年は石田まさひろ参議院議員でしたか。

たかがい はい、看護連盟が全力で石田さんを応援します。「看護のイシダ（意思だ）」でがんばります。よろしくお願いいたします。

安倍 たかがいさんも、参議院比例区で、全国を回られるので、大変ですね。

高階 大勢集まるスタイルではなく、5人10人の集まりで雑談する会を開いています。この1年間で350回ぐらいいきました。



安倍 そんなに？ すごいですね。

でも、少人数だと、相手は「聞いた」と言うより「話した」感じになるから、選挙でも力になってもらえるでしょう。数百人規模では、いい話を聞いたということが終わってしまうことも、仲間になれたと感じれば、輪が広がるかもしれません。いまはSNSもあるので、発進力のある人に参加してもらえんかが重要だと思います。看護職の皆さん一人ひとりにぜひ政治に関心を持ち続け、しっかりと政治に参加していただきたいと思っています。

たかがい これからも、様々な課題に取り組んでいくために、国民の声は重要です。この点について最後に、総理のお考えをお聞かせください。

安倍 大切なことは、自分の力を、可能性を信じることだと思います。そして、諦めないことだと思います。我々が政権を奪還する前は諦めや停滞感がありました。この5年間で、人口が減少していく中でも経済を成長させ、税収を増やし、社会保障の質を確保することができました。ポインタは、経済成長自体が目的なのではなく、それは、国民の生活や人生を豊かにしていくために必要だということです。



このことを、国民の皆さんにご理解いただくうえでも、政治の責任はたいへん重いと思っています。これからも誠実に丁寧に説明することを心がけ、しかしやるべきことについては勇気を持って大胆に取り組みを進めてまいります。

たかがい 日本はこれから、ラグビーワールドカップ、オリンピック・パラリンピックと、ますます世界の注目を集める時を迎えます。粘り強くチャレンジし続ける総理にご指導いただきながら、ともに働かせていただけることを誇りに思い、私たちも頑張りたいと思います。本日は、ありがとうございます。